

ウィークリー・アウトルック

IMF・世銀総会や G20 で為替相場に動意？

【今週のポイント】

- ・膠着する米ドル/円、IMF・世銀総会や G20 で方向感はあるか
- ・MAS(シンガポール通貨庁)はシンガポールドルを高め誘導するか
- ・豪雇用統計で RBA による追加利上げ観測が強まるか

今週は 12 日から 18 日まで、IMF・世銀総会がタイ・バンコクで開催。その流れで、15 日に G20 財務相・中央銀行総裁会議もバンコクで開催されます。IMF のトップ、ギオルギエワ専務理事によれば、今回は、従来型の新興国の経済発展や財政問題以上に、先進国の債務問題やエネルギー問題、さらには AI ブームとその危険性などが議論される模様です。

フランス、英国、米国、日本など先進国の長期金利(10 年物国債利回り)が大きく上昇しています。そのことが利払い負担の増大を通じて先進国の財政状況を一段と悪化させ、さらには世界の金利全般に上昇圧力を加えているとの懸念があります。ドイツと、財政や政治への懸念が高まっているフランスとの長期金利差は 12 日に 142bp(1bp=0.01%)と、欧州債務危機のさなかだった 12 年 5 月以来の高値を更新しました。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
10月12日		【日】祝日(スポーツの日)			
		IMF・世銀年次総会(18日まで、タイ・バンコク)			
10月13日	9:30	【豪】RBA議事録(9月28-29日会合分)			
10月14日	21:30	【米】CPI 前年比(9月)	3.6%	3.6%	3.4%
		【米】CPIコア 前年比(9月)	2.5%	2.5%	2.4%
	27:00	【米】ページブック(地区連銀経済報告)			
10月15日		G20財務相・中央銀行総裁会議(バンコク)			
	9:30	【豪】失業率(9月)	4.6%	4.6%	4.6%
		【豪】雇用者数 前月比(9月)	2.10万人	2.00万人	3.95万人
	21:30	【米】PPI 前年比(9月)	5.5%	5.4%	5.4%
		【米】PPIコア 前年比(9月)	4.6%	4.4%	4.6%
		【米】小売売上高 前月比(9月)	0.2%	0.3%	1.2%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(9月)	0.4%	0.6%	1.4%

市場予想はBloomberg、10月13日09:00現在。発表日時は日本時間。

主要中央銀行の利上げ観測はやや後退しています。目先の会合で利上げが予想されているのは、9月に政策金利を据え置いた BOE(英中銀)ぐらい。日銀、米 FRB、ECB(欧州中銀)は 10 月の会合で据え置きが予想されています。

10 月 CPI(消費者物価指数)、PPI(生産者物価指数)、小売売上高、ベージュブック(地区連銀経済報告)などの米経済指標の発表があります。FRB の金融政策に関する市場予想の変化には要注意でしょう。

米国の 7-9 月期決算の発表が本格化します。先陣を切る形で、13 日に、ゴールドマンサックス、JP モルガン、シティグループなど、14 日にバンクオブアメリカ、モルガンスタンレーなどの大手金融機関が決算を発表します。株価の動向は、投資家心理のリスクオン/オフを通じて為替相場に影響を与える可能性があります。＜西田＞

今週の米ドル/カナダドルや豪ドル/米ドル、NZドル/米ドルは、米国の CPI や PPI などの結果を受け、FRB の追加利上げ観測がどうなるのかに影響を受けやすいと考えられます。追加利上げ観測が強まるようなら、米ドル/カナダドルには上昇圧力が、豪ドル/米ドルや NZドル/米ドルには下落圧力が加わりそうです。

15 日には豪州の 9 月雇用統計が発表されます。その結果を受けて RBA(豪中銀)の先行きの金融政策に関する市場の見方がどのように変化するのか注目です。

中東からの原油供給への懸念から原油価格が反発しています。WTI 原油先物価格は 12 日、一時 94.36 ドルと 9 月 29 日以来の高値をつけました。原油価格が一段と上昇すれば、ノルウェークローネやカナダドル、メキシコペソにとってのプラス材料になりそうです。

米ドル/円が上昇を続ける場合、本邦当局の対応が注目されます。本邦当局による為替介入、あるいはその準備ともされるレートチェックがあれば、米ドル/円が大きく下落して、豪ドル/円や NZドル/円などは米ドル/円に引きずられるとみられます。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ:154.000 円~161.000 円>

米ドル/円は引き続き、日米の政策金利およびその見通しの差に伴う上昇圧力と、本邦当局(＋米当局?)による円安是正策に対する警戒感の綱引きとなりそうです。

10 月の政策会合は、FRB、日銀ともに据え置きとの見方が支配的です。ただ、12 日時点の OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、FRB は 27 年 6 月までに 0.25% × 2.9 回の利上げが市場に織り込まれている一方で、日銀は同じく 2.5 回の利上げとなっており、その差が米ドル/円のサポート材料となっています。今週の一連の米経済指標を受けて、FRB の政策見通しがどう変化するか、要注目でしょう。

今週は、IMF・世銀総会があり、その流れで G20 財務相・中央銀行総裁会議も開催されます。ベッセント米財務長官は欠席とのことですが、片山財務相や三村財務官が各国関係者と面談し、円安是正の方針に理解を得られれば、より強いメッセージを発したり、実際に為替介入を行ったりする可能性は高まるかもしれません。

なお、本邦当局が円買い介入に踏み切った 7 月 30 日の米ドル/円の高値は 163 円ミドル。米当局がユーロ売り円買いの介入で援護射撃した 7 月 31 日の米ドル/円の高値は 161 円手前でした。〈西田〉

今週の注目通貨ペア②: <米ドル/シンガポールドル>

予想レンジ: 1.2600SG ドル~1.3000SG ドル>

シンガポールの中央銀行にあたる MAS(シンガポール通貨庁)は S\$NEER(SGドル名目実効為替レート)を政策目標としており、それが緩やかに上昇するように誘導しています。MAS は 3 カ月に 1 度政策会合を開催しており、7 月 27 日の会合では S\$NEER の上昇するペースを「ほんのわずかに」加速させることが決定されました。4 月も上昇ペースを「わずかに」加速させましたが、それよりもゆっくりしたペースというイメージだったでしょう。

前回の会合以降、米ドル/シンガポールドル(以下、ドルシンガ)は下落基調でしたが、9 月上旬以降は反発に転じました。米ドル実効レートも 9 月上旬以降に FRB の利上げ観測の高まりから上昇基調となっており、そのペースはドルシンガの上昇ペースを上回っています。つまり、MAS が目標とする S\$NEER は緩やかに上昇している可能性があります。もっとも、MAS は足もとの原油高や AI 投資ブームから生じるインフレ圧力を警戒しているものとみられ、今回の会合でも、S\$NEER の上昇するペースを「ほんのわずかに」加速させることを決定する可能性はありそうです。〈西田〉

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.2300NZ ドル~1.2550NZ ドル>

豪ドル/NZドルは 9 月中旬以降の約 1 カ月間、おおむね 1.2300NZ ドル~1.2500NZ ドルで上下動を繰り返しており、目先の方向感が失われているようにみえます。

今週は 15 日に豪州の 9 月雇用統計が発表されます。その結果次第では、豪ドル/NZドルは方向感が出てくる可能性もあります。NZ に関しては、主要な経済指標の発表は予定されていません。

RBA(豪中銀)は前回 9 月 28-29 日の政策会合で 0.25%の利上げを行うことを決定。政策金利を 4.35% から 4.60%へと引き上げました。RBA による利上げは 5 月以来 3 会合ぶりで、26 年に入ってから 4 回目。RBA は声明で、必要なら追加利上げを行うとの姿勢を改めて示しました。

市場では、RBA は次回 11 月 3 日の会合で政策金利を据え置くとの見方が優勢。OIS(翌日物金利スワップ)に基づく、12 日時点で市場が織り込む次回会合の確率は、据え置きが約 7 割、0.25%の利上げが約 3 割です。豪州の 9 月雇用統計が市場予想と比べて強い結果になれば、RBA の追加利上げ観測が強まるとともに、豪ドル/NZドルには上昇圧力が加わる可能性があります。〈八代〉

今週の注目通貨ペア④: <メキシコペソ/円 予想レンジ:8.400 円~9.000 円>

メキシコペソ/円は 8.600 円近辺と、25 年 12 月以来およそ 10 カ月ぶりの安値圏で推移しています。メキシコペソは対米ドルでも軟調に推移しており、10 月 9 日に 25 年 11 月以来の安値をつけました。

FRB や ECB など主要中銀が利上げ方向にあることが新興国通貨であるメキシコペソにとってのマイナス材料になっているほか、10 月 8 日に公表された BOM(メキシコ中銀)会合の議事要旨(9/24 開催分)が、メキシコペソに対するさらなる下押し圧力となっています。

BOM は 9 月 24 日の会合で政策金利を 6.50%に据え置くことを全会一致で決定しました。ただ、議事要旨によると、5 人の政策メンバーのうち 3 人が会合で利下げについて言及したことが明らかになりました。

政策メンバーの 1 人は「物価の決定要因がデysinフレの過程を引き続き支えるなら、1 回限りの利下げを検討し得る」と発言。別の 1 人は「状況が許せば、利下げの可能性を検討できる」と述べ、また別の 1 人は「政策金利を下方へ微調整することの妥当性について議論できる」と語りました。この 3 人は次回 11 月 5 日の会合以降、利下げを支持するかもしれません。

主要中銀と BOM の金融政策の方向性を踏まえると、メキシコペソ/円は引き続き上値が重い展開になりそうです。<八代>

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
